

平成 28 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座 教授
氏名 Name	藤原 克美
専門分野 Academic Field	ロシア・ソビエト経済論

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ソビエト「消費社会」の研究
<p>科研費 (C)「不足のなかの「消費社会」」の研究として、平成 28 年 9 月 7～15 日と平成 29 年 2 月 14 日～19 日にモスクワに出張し、ロシア国立図書館やロシア国立経済文書館で、ソビエト軽工業省の資料を閲覧、タイプした。また、Fashion Consulting Group の副所長 Anush Gasparyan 氏と研究テーマについて議論し、世論調査機関「レバダ・センター」副所長の Alexey Grazhdankin 氏とは平成 29 年秋のインタビュー調査の実施にむけて協議した。これまでの研究成果は、「ソビエト・ジーンズの誕生」『立命館経済学』（立命館大学、第 65 巻第 5 号、228-249 頁、2017 年 3 月）として発表した。</p> <p>岡洋樹先生（東北大学）代表の科学研究費プロジェクト (B)「東北アジア辺境地域多民族共生コミュニティ形成の論理:中露・蒙中辺境に着目して」では、9 月 24 日に神戸大学で開催された The Second EAJIS Japan Conference (欧州日本学会)において、“Women as Consumers in Harbin – Focusing on Department Stores –”というタイトルで報告を行った。</p> <p>そのほか、現代ロシアの繊維産業に関する研究として、「ロシアのテキスタイル産業クラスター」（『ロシア・ユーラシアの経済と社会』、2016 年 7 月、2-15 頁）を執筆した。また、6 月 5 日に弘前大学で開催された比較経済体制学会第 56 回全国大会で共通論題「国民経済とグローバル化する産業発展—比較経済学的アプローチ」の報告者として「グローバリゼーション下のロシア企業戦略：アパレルを事例として」を報告した。11 月 4 日に仁川で開催された AECF での報告内容をまとめた“Industry Cluster Policy During Economic Crisis”も刊行された (<i>Journal of Northeast Asia Development</i>, Incheon National University, Vol.18, Dec. 2016, pp.29-42)。</p>	